

ため池ハザードマップについて

このマップは、農業用ため池が大雨や地震等の災害により、万が一にも堤が壊れ、皆さんの地域にため池の貯水が流出した場合を想定して作成したものです。

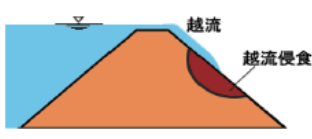
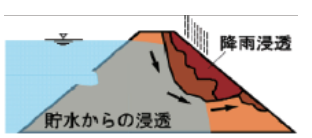
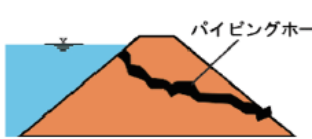
豪雨や大地震時には特に注意し、浸水想定区域で居住または作業を行っている方は、速やかに避難が必要です。

ため池の貯水は、流出してしまうと徐々に水は引きますが、ため池の周辺には沢や川があるため、継続して雨が降っている場合は完全に水が引くまで避難してください。


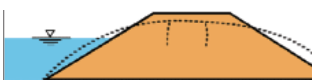



万一、安全な場所に避難できない場合でも、生命を守る最低限の行動として、近くで周囲の建物より比較的高い建物(鉄筋コンクリート等の堅固な建物)の2階以上に避難するようにしてください。

【ため池決壊のメカニズム】

○豪雨によるため池の被災形態

区分	被災形態	被災メカニズム
越流破壊		豪雨により、貯水位が急激に上昇し、堤体を超えて流れ出すと、下流斜面を流下することによって、破壊する可能性がある。 また、貯水位の上昇により、堤体内の水圧も上昇し、強度が低下して破壊する可能性がある。
すべり破壊		貯留した水と降雨が堤体の中に浸透して、堤体内部の水分量が増加し、堤体の法面部の強度が低下することによって、法面部ですべりが発生し破壊する可能性がある。
浸透破壊		堤体内が劣化して、水を遮る機能が低下すると、貯水位が上昇した時に堤体の中の水圧も上昇して強度が低下し、破壊する可能性がある。 また堤体内に上流から下流に向かう水みちが発生し破壊する可能性がある。

○地震によるため池の被災形態

区分	被災形態	被災メカニズム
クラック		堤体の頂部などにクラック(亀裂)が発生する可能性がある。 堤体の上下流方向に生じるクラック(亀裂)は水みちとなることがあり、特に注意が必要である。
沈下		堤体の形状をほぼ保ち、クラック(亀裂)などを伴いながら堤体が沈下する可能性がある。多くは軟らかい地盤で発生している。
斜面崩壊		堤体法面の上部が沈下し、下部がはらんで変形が生じる可能性がある。
斜面すべり		地震動により堤体の法面にすべりが発生する可能性がある。
崩壊		堤体や地盤が大きく変化し、崩壊する可能性がある。決壊に至ることが多く、堤体や基礎地盤の液状化によるものと考えられる。